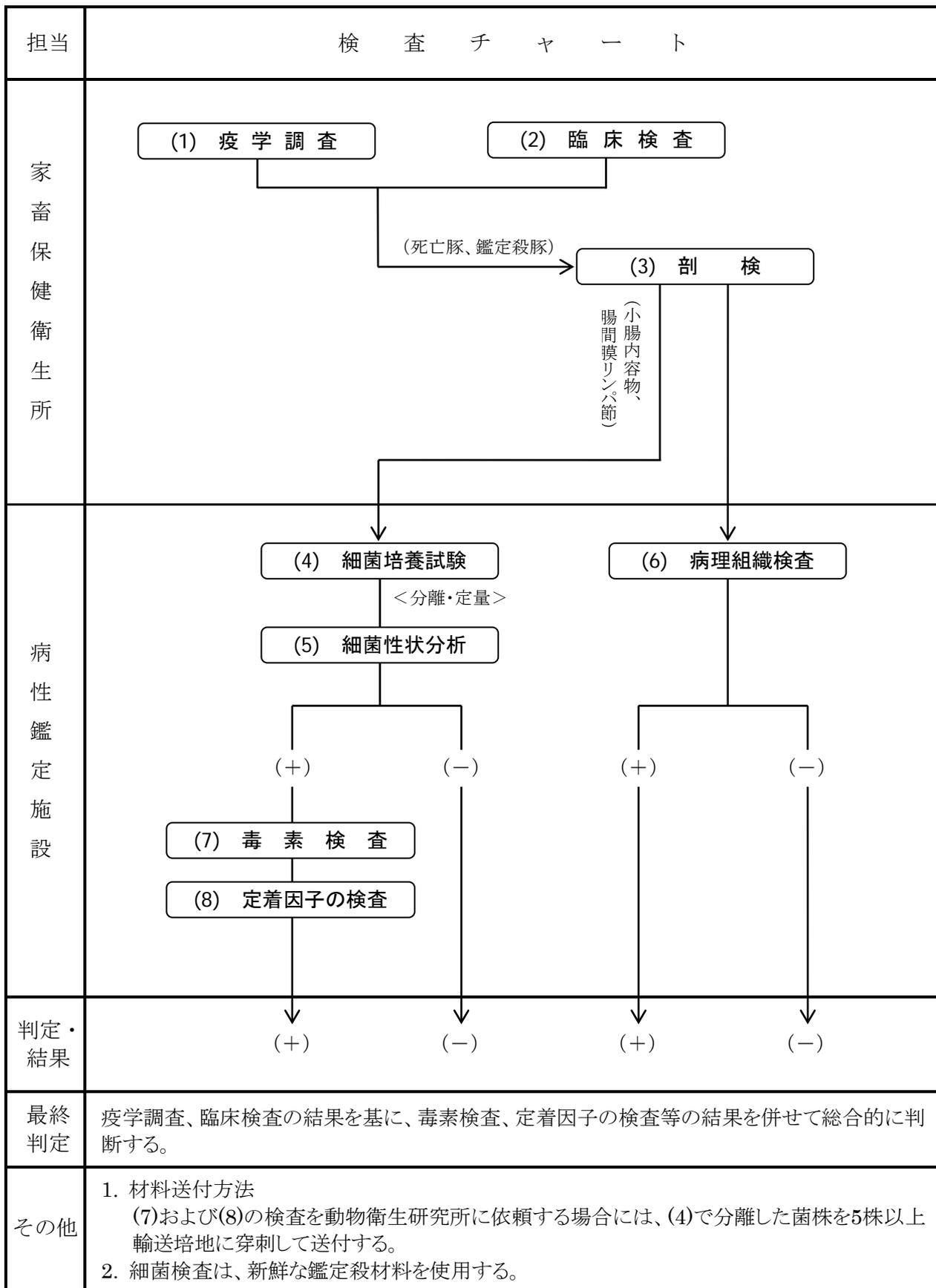


92 浮腫病



→類似疾病検査

- ① 離乳後下痢
- ② 101 豚レンサ球菌症
- ③ 102 ヘモフィルス・パラスイス感染症(グレーサー病)
- ④ 70 豚コレラ
- ⑤ ウイルス性脳炎
- ⑥ 76 オーエスキー病
- ⑦ 85 豚サイトメガロウイルス病
- ⑧ 熱射病

○ 病原体:志賀毒素産生性大腸菌(STEC)(別名ベロ毒素産生性大腸菌(VTEC))

(1) 疫学調査

- ① 散発的に発生するが、続発することもある。
- ② 4～12 週齢の肥育豚に好発する。
- ③ 死亡率が高い(50～90%)。
- ④ 発病後 48 時間以内に死亡する例が多い。

(2) 臨床検査

- ① 典型的な浮腫病では間代性痙攣、後躯麻痺などの神経症状と前頭部、眼瞼周囲、下腹部に顕著な浮腫が出現
- ② 非定型的浮腫病である脳脊髄血管症では神経症状が主徴であり、浮腫は目立たない。
- ③ 呼吸困難
- ④ 奇声

(3) 剖 検

- ① 全身の皮下水腫
- ② 胃壁、腸壁、胆管壁、腸間膜の水腫性肥厚
- ③ 腸間膜リンパ節の充血・腫大
- ④ 肺のうっ血、水腫
- ⑤ 腹水や胸水の増量
- ⑥ 脳脊髄血管症では水腫性変化が乏しい。

(4) 細菌培養試験(分離・定量)

- ① 新鮮な小腸の内容物を、DHL 寒天培地および血液寒天培地を用いて定量培養を行う。併せて定性培養として、腫大した腸間膜リンパ節の断面を血液寒天に塗抹・培養する。
- ② DHL 寒天培地では赤色、血液寒天培地ではβ型の溶血環のある乳白色の集落を形成する。
- ③ 小腸内容で10⁴個/g以上検出された場合、または腸間膜リンパ節で検出された場合、本病を疑う。

(5) 細菌性状分析

(分離菌の性状)

菌 種	インドール	V P	クエン酸	硫化水素	乳糖	リジン
一般のサルモネラ	—	—	+	+	—	+
大腸菌	+	—	—	—	+	—d
クレブシエラ	—	+	+	—	+	—

d:血清型または菌株によって異なる。

(6) 病理組織検査

- ① 全身諸臓器の小血管壁の膨化、平滑筋の核濃縮、核崩壊、ときに類線維素変性
- ② 結合織における漿液滲出
- ③ 脳脊髄血管症では脳幹部における脱髄、小動脈壁の類線維素変性、血管周囲の好酸性滴状物の出現が特徴的。本症の診断は病理組織検査が主体となる。

(7) 毒素検査

志賀毒素(Stx2e、別名 VT2e)Vero 細胞テスト、PCR¹⁾

(8) 定着因子の検査

PCR¹⁾による F18 線毛遺伝子の検出

(参考文献)

・中澤宗生: 豚病学(柏崎 守ら編)、第 4 版、333-335、近代出版、東京(1999)。

1) Vu-Khac, H., et al.: Vet. J. 174, 176-187 (2007).